

実践事例

学年	6年	
教科名	国語科	
単元名	学級討論会をしよう	
指導計画 (全8時間)	1	討論会のねらいや準備について知り、学習の見通しをもつことができる。
	2	討論会の進め方を理解し、主張の仕方や質問の仕方などを理解することができる。
	3	討論会のねらいを理解したうえで、話題を決めることができる。
	4	話題に対して自分の考えをもち、学級討論会に向けて準備をすることができる。
	5	相手の主張を聞き、自分の考えと比べながら発言することができる。
	6	討論会の意義とよりよい討論の聞き方や主張のしかたを理解することができる。
	7	どのような伝え方をすれば相手に受け止めてもらえるかについて考えることができる。
	8	相手の主張を聞き、自分の考えと比べながら発言することができる。
本時の目標	相手の主張を聞き、自分の考えと比べながら発言することができる。	
防災の視点(※)	(B)「福良の防災レベルは高いのか」を設定し、地域の防災について考え、話し合うことができる。	

本時の展開(6/8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <p>2. これまでの学習を振り返り、討論会の流れとポイントを再度確かめる。</p> <p>3. グループに分かれて、討論会を行う。</p> <p>4. 討論会を終え、自分の役割が果たせたか、グループとしてうまく討論することができたかを振り返る。</p> <p>5. 学習の振り返りをする。</p>	<p>○「福良の防災レベルは高いのか」の議題について、自分が考えた肯定意見と否定意見を確認させる。</p> <p>○話し合う際には、自分の考えをもちながら聞くように伝える。</p> <p>○聞くグループがまとめる際には、どちらの意見も受け入れつつまとめるようにさせる。 ※「福良の防災レベルは高いのか」を設定し、地域の防災について考え、話し合うことができる。</p>	<p>●福良の防災に関する写真(防潮堤等)</p>

実践事例

学年	6年	
教科名	国語科	
単元名	ようこそ私たちの町へ	
指導計画 (全12時間)	1	自分たちが住んでいる町のよいところや特徴を話し合い、「町のお勧めを伝えるためにパンフレットを作ろう」という学習課題をもつことができる。
	2	パンフレットを読んで、その特徴をつかむことができる。
	3	相手や目的に合った題材を選び、パンフレットの構想を立てることができる。
	4~6	取材計画を立て、パンフレット作りに必要な情報や材料を集めることができる。
	7	集めた情報を整理し、パンフレットに使いたいものを選んで構成を考えることができる。
	8・9	読む相手によく伝わる語句や表現を工夫した文章を書くことができる。
	10・11	下書きを読んで、推敲したり、友だちと助言し合ったりすることで、よりよい文章にすることができる。
	12	完成したパンフレットを読み合い、助言し合うことを通して、パンフレット作りを振り返ることができる。
本時の目標	取材計画を立て、パンフレット作りに必要な情報や材料を集めることができる。	
防災の視点(※)	(B)防災に関する施設について取材し、情報を整理する。	

本時の展開(5/12)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 本時のめあてを確認する。		
2. 取材活動で得た情報を整理する。	<p>○取材してわかったことをワークシートにまとめさせる。</p> <p>○取材が不十分な点については、改めて情報を収集できるように声かけを行う。</p> <p>※防災に関する施設について取材し、情報を整理する。</p>	<p>●なないろ館</p> <p>●福良港津波防災ステーション</p>
3. 次時の活動を確認する。	<p>○まだ取材が必要な児童については、改めて取材するよう促す。</p>	

実践事例

学年	6年	
教科名	国語科	
単元名	未来がよりよくあるために	
指導計画 (全11時間)	1・2	「平和のとりでを築く」を読み、平和に対する人々の思いや行動を参考にし、どのような未来にしていきたいのか、自分の考えをもつことができる。
	3	どんな未来にしたいのか、そのために何ができるのかを、現在の社会や自然環境、身の回りのことなどに目を向け、自分の考えを書き出すことができる。
	4・5	説得力ある意見文を書くために、自分の考えの根拠となる情報の収集と選択をすることができる。
	6・7	グループで自分の意見とその理由を発表するとともに、お互いの意見を比べながら聞き合い、考えを深めることができる。
	8	説得力のある意見文を書くために、論理的な構成のしかたを理解し、集めた情報や参考になる友だちの発言などを整理して、意見文の組み立てを考えることができる。
	9・10	説得力のある意見文を書くための工夫について理解し、構成表を元にして自分の考えを文章にまとめることができる。
	11	意見文を読み合い、友達の文章から自分の考えを深めたり、広げたりするとともに、説得力のある意見文にするための工夫について理解を深めることができる。
本時の目標	どんな未来にしたいのか、そのために何ができるのかを、現在の社会や自然環境、身の回りのことなどに目を向け、自分の考えを書き出すことができる。	
防災の視点(※)	(B)テーマを考える段階で社会や環境にかかわる安全について取り上げる。	

本時の展開(3/11)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 本時のめあてを確認する。	○戦争と平和以外にも、さまざまなテーマについて考えさせる。	●災害関連の新聞記事
2. 最近の新聞やテレビニュースから印象に残っているものを挙げ、未来について考える足がかりとする。	※災害についての情報にふれる。またその際には、暗い出来事だけでなく明るい出来事についても考えさせる。	
3. 現在の状況を踏まえて、どんなことを大切にしていきたいか例を挙げるとともに、表に分類・整理する方法を理解する。	○表に分類・整理させることにより、考えを整理させやすくする。	
4. どんな未来にしていきたいかを考え、表に書き出す。	○整理したことから、自分の考えをまとめる。	
5. 書き出したものから、最も大切にしたいものを決める。	○自分が意見文を書く時に中心になるテーマを決める。	

実践事例

学年	6年	
教科名	社会科	
単元名	国力の充実をめざす日本と国際社会	
指導計画 (全8時間)	1	西南戦争と演説の様子挿絵を手がかりにして、政府に対して不満をもっていた人々の動きに関心を持ち、学習への意欲をたかめることができる。
	2	自由民権運動の高まりから、明治政府は発足20年ほどで憲法を制定し、立憲政治を確立したことや、国民の政治参加の面では不十分であったことをとらえることができる。
	3	日本の近代化について調べ、年表にまとめることで、政府が条約改正に努め、欧米諸国との対等な関係の構築に努力したことを読み取ることができる。
	4	日清・日露戦争について調べ、二つの戦争を経て日本の国際的地位が向上し、朝鮮半島に勢力を拡大したことを理解することができる。
	5	韓国併合前後に日本がとった政策やそれに対する抵抗運動を調べ、朝鮮の人々の思いを考えることができる。
	6	日清・日露戦争のころの日本国内の産業やくらしの様子、世界で活躍した日本人などについて調べ、国力の充実と関わりを話し合う。
	7	明治・大正時代の社会運動について調べ、当時の人々が自由と権利を求めて立ち上がったわけについて考えることができる。
	8	明治・大正時代について学習したことを図にまとめ、話し合うことで、日本の国力が充実していった様子について自分の考えを明確にしたり、深めたりすることができる。
本時の目標	明治・大正時代の社会運動について調べ、当時の人々が自由と権利を求めて立ち上がったわけについて考えることができる。	
防災の視点(※)	(B)関東大震災を取り上げ、9月1日が防災の日になった由来を知る。	

本時の展開(7/8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 本時のめあてを確認する。		
2. 明治・大正時代の人々の生活の様子について話し合う。	○女性の自由や権利が制限されていたことをとらえ、社会がどう変わっていくかについて関心を高めるようにする。 ※関東大震災を取り上げ、9月1日が防災の日になった由来を知る。	●関東大震災の様子がわかる写真資料
3. 当時の様子や社会運動について調べる。	○日常生活で差別されていた人々が、自らの解放に立ち上がったことに気づくようにする。	
4. 様々な社会運動のなかでの、人々の願いについて考える。	○女性には認められなかったという不十分な制度であったことをとらえるようにする。	

実践事例

学年	6年	
教科名	社会科	
単元名	わたしたちの願いと政治のはたらき	
指導計画 (全6時間)	1	地震が起きたときの市や県、国の取り組みに関心をもとうとしている。
	2	災害から市民の生活を守るために、市が県や国と協力して活動していることを理解することができる。
	3	水俣病の教訓を生かして環境対策を進める水俣市の新しいまちづくりについて、関心をもつことができる。
	4	国の政治について、国会、内閣、裁判所の主な仕事と仕組みの学習を通し、三権分立の仕組みや各機関の働きと裁判と国民との関わりについてとらえることができる。
	5	現在の選挙制度の問題点や政治を動かすのは議員だけでなく、世論など住民の願いも大きく関係していること、裁判員制度により司法にも住民が関われるようになったことを理解することができる。
	6	政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考え、適切に表現することができる。
本時の目標	災害から市民の生活を守るために、市が県や国と協力して活動していることを理解することができる。	
防災の視点(※)	(A)地震が起きたときの市や県、国の取り組みに関心をもとうとしている。	

本時の展開(2/6)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 復興に向けた市や県・国の取り組みを考える。	○復興に向けての被災した住民の願いについてカードなどに整理しておく。	●社会科資料集の写真
2. 復興への取り組みについてまとめる。	○市や県・国の取り組みを考え、理解していく課程で、子どもたちが気づいたことを整理しながら、「震災復興計画」「東日本大震災復興基本法」という言葉をおさえる。	
3. 自然災害からの復旧・復興と政治の働きについて考える。	○資料をもとにした気づきから、わたしたちの生活と市や県・国の政治の働きについて考えたことを簡単な単文で書かせる。	

実践事例

学年	6年	
教科名	社会科	
単元名	国際連合のはたらきと日本人の役割	
指導計画 (全8時間)	1	国連憲章を調べることを通して、国際連合がどのような目的でつくり、どのような働きをしているのかを考えることができる。
	2	安全保障理事会の働きや国連の取り組みについて調べることを通して、国連が世界の平和維持のための活動をおこなっていることを考えることができる。
	3	ユニセフの活動について募金ポスターやインターネットのホームページを活用して調べ、平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働きを考えることができる。
	4	現在の地球環境の問題とその対策について調べ、地球環境を守るためには、国連の働き、各国の協力で持続可能な社会や環境づくりがたいせつであることをとらえることができる。
	5	日本のスポーツや文化を通じた国際交流について調べ、国と国とが交流することで、互いの歴史や文化を理解し合い、尊厳し合っで平和な世界をつくる努力をしていることを考えることができる。
	6	現在、国づくりを進めている国に対する、災害や医療面での日本の国の組織や民間の団体の協力の様子などを通して、日本が多くの国際協力に参加していることをとらえることができる。
	7	現在、国づくりを進めている国に対する、教育や農業面での日本の国の組織や民間の団体の協力の様子などを通して、日本が多くの国際協力に参加していることをとらえることができる。
	8	世界平和のたいせつさや我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考え、適切に表現することができる。
本時の目標	現在、国づくりを進めている国に対する、災害や医療面での日本の国の組織や民間の団体の協力の様子などを通して、日本が多くの国際協力に参加していることをとらえることができる。	
防災の視点(※)	(A)現在、国づくりを進めている国に対する、災害や医療面での日本の国の組織や民間の団体の協力の様子などを通して、日本が多くの国際協力に参加していることをとらえることができる。	

本時の展開(6/8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. さまざまな国際協力について話し合う。	OP.76の写真やインドネシアの津波の新聞記事等を提示し、日本は、技術や資金の面で援助をおこなっていることをおさえる。	●小学社会【日本文教】P.76の写真 ●スマトラ島沖地震の様子が分かる写真
2. 災害の面での国際協力について話し合う。	○二つの写真を並べて提示し、「困ったときはお互い様」の意味を考え合う。	
3. 医療の面での国際協力について調べる。	○「100人生まれたうち、5才になる前に命を失う子どもの数」の地図を提示し、特に数が多い地域とその原因を確認する。	

実践事例

学年	6年	
教科名	算数科	
単元名	速さの表し方を考えよう	
指導計画 (全11時間)	1・2	距離と時間のどちらも異なる場合の速さの比べ方を考えることを通して、速さは単位量当たりの大きさの考えを用いて表せることを理解する。
	3	速さを変えて歩く時間や走る時間を測定する活動を通して、速さの表し方への興味を広げる。
	4	速さを求める公式を理解し、それを適用して速さを求めることができる。時速、分速、秒速の意味を理解する。
	5	道のりを求める公式を理解しそれを適用して道のりを求める。
	6	速さと道のりから時間を求める方法について理解する。
	7	時間を分数で表して、速さの問題を解決することができる。
	8	速さが一定のときに、道のりと時間が比例関係にあることを理解する。
	9	作業の速さも単位量あたりの大きさの考えを用いて比べられることを理解する。
	10	学習内容を適用して問題を解決する。
	11	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。
本時の目標	速さと道のりから時間を求める方法について理解する。	
防災の視点(※)	(B)東日本大震災の津波の速さを取り扱い、時速、分速、秒速の関係を考える。	

本時の展開(4/11)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 問題・課題をとらえる。		
2. 1時間あたりに進む道のりを求める。	○立式する際、数直線をかきよう助言する。	
3. それぞれ求めた答えを発表し合い、検討する。	○数直線などを利用して説明させる。	
4. 速さの意味を知り、速さを求める公式をまとめる。	○児童の発言を尊重し、できるだけ児童の言葉でまとめるようにする。	
5. 時速を分速で表す。	○単位時間の変換については、速さと単位時間あたりに進む道のりであることを強調しながら扱う。	
6. 練習問題に取り組む。	※東日本大震災の津波の速さを取り扱う。	●東日本大震災の写真

実践事例

学年	6年	
教科名	算数科	
単元名	震災の経験を生かそう	
指導計画 (全2時間)	1・2	既習事項を活用して、グラフを考察し、問題解決能力や情報処理能力を高める。
本時の目標	既習事項を活用して、グラフを考察し、問題解決能力や情報処理能力を高める。	
防災の視点(※)	(B)グラフを考察することで、災害への備えについて意識を持つきっかけとする。	

本時の展開(2/2)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 本時の課題をとらえる。	○児童が見やすいように調査結果を拡大して掲示する。	●災害関連(被害等)のグラフ
2. 問題を解決する。	※災害前に比べて増えた物の読み取り方について考えさせる。	
3. 気づいたことについて話し合う。	※大きな災害が起こった時には、1週間以上の備えが必要なことを押さえる。	

実践事例

学年	6年	
教科名	算数科	
単元名	資料の特ちょうを調べよう	
指導計画 (全10時間)	1・2	代表値としての平均について理解する。
	3	資料の散らばりの様子を考察することができる。
	4・5	資料を度数分布表に整理する方法を理解し、読み取ることができる。
	6・7	柱状グラフの読み方、かき方について理解する。
	8	統計的な観点で調べて整理した表をつくり、考察の仕方についての理解を深める。
	9・10	既習のグラフを組み合わせたグラフの読み方を理解する。
本時の目標	既習のグラフを組み合わせたグラフの読み方を理解する。	
防災の視点(※)	防災に関するグラフを取り上げ、それぞれの資料の特徴について知る。	

本時の展開(10/10)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 問題・課題をとらえる。</p> <p>2. ダイアグラムの問題に取り組む。</p> <p>3. 社会の教科書や震災に関する資料を用意し、どんなグラフが使われているのか見つける。</p>	<p>○ダイアグラムは電車の時刻表に使われることを知らせる。</p> <p>○グラフが水平(横軸と平行)なときは、列車が停車していること、2本のグラフが交わっているところで、列車が追い越されたり出合ったりしていることなど、いろいろな読み取りをさせる。</p> <p>○算数を、他教科や生活の中で生かしていこうと呼びかける。</p> <p>※防災に関する資料を取り上げ、それぞれの使用の特徴を知る。</p>	<p>●災害関連の資料(グラフ入り)</p>

実践事例

学年	6年	
教科名	理科	
単元名	ものが燃えるとき	
指導計画 (全7時間)	1	ものが燃えるとき
	2～3	ものを燃やすくふう
	4～5	ものが燃えるときの変化
	6～7	酸素のはたらき
本時の目標	実験結果から、自分の考えを表現することができる。	
防災の視点(※)	(B)非常時に使える道具にも、燃やす工夫がされていることにふれる。	

本時の展開(7/7)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 前時の実験結果を想起する。	○空気中、酸素中、窒素中で燃え方を比べたことを思い出させ、表の整理につなげる。	
2. 実験結果を表に整理する。	○4つの気体に対して、燃え方の状況を細かく記録するための工夫をするよう促す。	●4つの気体 ・空気 ・酸素 ・二酸化炭素 ・窒素
3. 表から酸素のはたらきを考えよう。	○酸素のはたらきだけでなく、空気中でも穏やかに燃えることから、酸素以外の空気の成分についても考えさせる。	
4. まとめ	○酸素には燃やすはたらきがあること、空気中には、窒素が大量に含まれているが、酸素が少しあることで穏やかに燃えるということをおさえる。 ※ものが燃えるには、酸素が必要であり、ライターやチャッカマン等も燃え口に空気を通す工夫がされていることにふれる。	●チャッカマン、 ライター

実践事例

学年	6年	
教科名	理科	
単元名	大地のつくりと変化	
指導計画 (全16時間)	1～2	大地のつくりと変化
	3～6	地層のでき方
	7～10	わたしたちが住む大地のつくり
	11～15	大地の変化
	16	まとめ
本時の目標	地震によって起こった大地の変化や災害などに関心をもち、調べようとする。	
防災の視点(※)	(A)地震や火山活動による大地の変化と災害とを関連づけて調べる。	

本時の展開(11/16)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 地震や噴火が生活にどんな影響をあたえるのか。	○まず、地震を取り上げ、地震による大地の変化に焦点を当てる。	
2. 課題「各地で発生している地震にはどのような共通点があるか。」について予想する。	○自由に予想させることで、詳しく調べようとする意欲を持たせる。	
3. 地震による大地の変化の共通点について調べる。	※大地の変化と災害とを関連づけて調べる。	●大地の変化が分かる地震災害の資料 (阪神淡路大震災等)

実践事例

学年	6年	
教科名	理科	
単元名	てこのはたらき	
指導計画 (全9時間)	1	てこのはたらき
	2	棒を使った「てこ」
	3	
	4	
	5	てこのうでをかたむけるはたらき
	6	
	7	てこを利用した道具
	8	
	9	まとめ
本時の目標	身の回りには、てこの規則性を利用した道具があることを理解する。	
防災の視点(※)	(B)てこの規則性を利用した道具が災害時にも役立つことに気付く。	

本時の展開(8/9)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>・前時の実験から引き続き</p> <p>1. 実験から結果について話し合う。</p> <p>2. わかったことをまとめる。</p>	<p>○様々な道具がある中で、小さな力で作業できる道具を中心に取り上げる。</p> <p>○支点・力点・作用点の位置関係と加える力の大きさに着目させながら、結果をまとめる。</p> <p>※災害時のことを想起させ、てこの規則性を利用して、人を助けられることに気付く。</p>	<p>●かなづち、くぎぬき 栓抜き 等</p>

実践事例

学年	6年	
教科名	理科	
単元名	発電と電気の利用	
指導計画 (全11時間)	1	発電と電気の利用
	2～4	手回し発電機で発電しよう
	5～7	電気をたくわえて使おう
	8・9	電流による発熱
	10	電気のへんかんと利用
	11	まとめ
本時の目標	興味をもって発電を体験し、その電気を利用しようとする。	
防災の視点(※)	(B)電気を作る道具として手回し懐中電灯を扱い、役割についてふれる。	

本時の展開(1/11)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. これまでの電気の学習を想起する。	○電気に関する学習を振り返り、電流の向きや電流の大きさについて確認する。	●手回し懐中電灯
2. 電気を使っている様子の写真を見て考え、予想する。	○話し合いの中から、自分の考えが持てるように話し合ったことをノートに書き留める。 ※手回し懐中電灯の役割についてふれる。	
3. モーターの軸を回して、発電してみる。	○勢いよく糸を引いて手を切らないよう注意する。	
4. 気付いたことや疑問に思ったことを考え、発表する。	○電流の大きさや電流の向きを変えることに注目させ、次時につなげる。 ○手回し懐中電灯の中にもモーターがあることをおさえ、次時につなげる。	
5. 次時の課題をつかませる。		

実践事例

学年	6年	
教科名	家庭科	
単元名	夏をすずくさわやかに	
指導計画 (全8時間)	1	夏の生活を見つめよう。
	2~7	快適な住まい方や着方をしよう。
	8	夏の生活を工夫しよう。
本時の目標	衣服の手入れの必要性を知り、洗濯の仕方を調べて計画を立てる。	
防災の視点(※)	(B)夏の災害時における避難所での過ごし方や工夫できることを考えたり、手洗いの経験が役に立つことを知る。	

本時の展開(6/8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 衣服の手入れの仕方を考える。	○衣服を気持ちよく大切に着るための手入れをあげる。 ・汚れたら洗濯する。 ・形よくしもう。 ・アイロンをかける。 ・防虫する。など	●手洗いの手順の写真や絵図、絵表示
2. 衣服の手入れの必要性を知る。	○洗濯をすると汗や汚れを布がよく吸い取るようになることを押さえさせる。	
3. 手洗いの仕方を調べる。	※災害時、電気が止まったり、節水しなければならない時の洗濯方法についても触れる。 ○洗剤と水の適量、取り扱い絵表示の読み方をまとめる。	
4. 手洗いの実習計画を立てる。	○手洗いの手順に沿って発表させ、環境への配慮が災害時にも役立つことに気付かせる。	

実践事例

学年	6年	
教科名	家庭科	
単元名	まかせてね今日の食事	
指導計画 (全8時間)	1	1食分の献立を立てよう
	2~7	家族が喜ぶ食事「福良メン」を作ろう(防災食を取り入れて)
	8	楽しく食事をするために工夫しよう
本時の目標	家族のために栄養のバランスのよい1食分の献立「福良メン」を考えよう	
防災の視点(※)	(B)災害時にできる料理の食材や調理方法の工夫を考え、1食分の献立に取り入れる。	

本時の展開(2/8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 家族のための食事を作るために献立の立て方を知り、おかずの計画を立てる学習の見通しをもつ。</p> <p>2. 献立を立てる。</p> <p>3. 次時の学習の確認</p>	<p>○前時の学習を振り返り、食事作りの計画で必要なことを確認する。</p> <p>○どんな食事にしたいのか、自分の考えたおかずと1食分の食事作りのテーマ「福良メン」を話し合うようにする。</p> <p>※各自夏休みの家庭学習で考えたり実習してきた「サバイバルメニュー」を出し合い、班で話し合う。</p> <p>※福良の特産物である「そうめん」が防災食であり、他にも「わかめ」や加工食品も防災食になることを確認する。</p> <p>※災害時、節水・節電・加熱の工夫、容器や用具の使い方の工夫を考えさせる。</p> <p>※災害時でも栄養のバランスを考えた食事が大切であることを知らせる。</p> <p>○班で考えた献立をもとに作るおかずの調理の計画を立てることを確認する。</p>	<p>●自作のサバイバルメニュー</p> <p>●そうめん</p>

実践事例

学年	6年	
教科名	家庭科	
単元名	冬を明るく暖かく	
指導計画 (全6時間)	1	冬の生活を見つめよう。
	2～5	快適な住まい方や着方をしよう。
	6	冬の生活を工夫しよう。
本時の目標	冬の住まい方と着方を工夫しよう。	
防災の視点(※)	(B)冬の災害時における避難所での過ごし方や工夫できることを考えることができる。	

本時の展開(6/6)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. これまで学習した環境に配慮して冬を快適に過ごす工夫には、どのようなものがあったか振り返る。</p> <p>2. 冬の災害時、家庭や避難所などで過ごす場合の課題を見つける。</p> <p>3. 課題解決案の作成</p> <p>4. グループでまとめた考えを発表する。</p>	<p>○暖かさを取り入れる工夫と逃がさない工夫とがあったことを押さえる。</p> <p>・温かい飲み物、風呂の利用、湯たんぽなどの家庭での工夫を引き出す。</p> <p>※災害時、電気が止まって暖房器具が使えなかったり、避難所で限られた物しかなかったりした場合の健康や快適さの観点からの課題を見つけるようにする。</p> <p>○冬の災害時の家庭や避難所生活の仕方から課題を見つけ、環境に配慮した快適な住まい方や着方について考えたり、自分なりに工夫したり事前に準備しておかなければならない事や心構えについて考えさせる。</p> <p>○考えたことは、日常生活や環境問題解決にも生かされることに気づかせる。</p>	<p>●湯たんぽなど、災害時に暖が取れる実物や写真</p>

実践事例

学年	6年	
教科名	家庭科	
単元名	あなたは家庭や地域の宝物	
指導計画 (全4時間)	1	家族の一員として家庭や地域でできること
	2・3	心のつながりを深めよう
	4	もっとかがやくこれからの私たち
本時の目標	家族の一員として家庭や地域でできることを考えよう。	
防災の視点(※)	(B)家族の一員として、災害時に家庭や地域でできることを考えさせる。	

本時の展開(1/4)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 教科書のイラストを見て、それぞれ何をしているのか、気付いたことを話し合う。</p> <p>2. 自分や家族が、どのように地域と関わっているか考える。</p> <p>3. 災害についての家族や身近な人との関わり方について考える。</p> <p>4. 自分たちが今住んでいる地域とこれからどのように関わっていけばよいか、何ができるか話し合う。</p>	<p>○人と人との関わりに着目させる。</p> <p>○教科書の図を参考に、自分が取り組めることがないか考えさせる。</p> <p>○自分の生活行動が地域の人々の生活と結びついていることに気付かせる。 ・家族や地域の中でのあいさつ・ごみの分別や道路のルールを守るなど。</p> <p>※災害についての家族や身近な人との話し合いで、どのような内容について話し合っているか出し合う。「避難の方法や、場所について」「連絡手段について」「食料・飲料水について」「非常持ち出し品について」など ・共助による地域防災力や災害ボランティアについて考えさせる。</p>	<p>●指導資料集の図や表、事例集、災害関連の参考書籍</p>

特別支援学級（知的） 自立活動学習指導案

ひまわり学級 1名

授業者 増井ちとせ

1 題材名 じしんがきたら、どうする？

2 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童（6年男子）は、日頃から地震に対する認識をもっており、授業中に地震が起こった際にも教師が言わなくても机の下に入ることができている。自宅で地震が起こったときも、「じしん」「こわい」と言っていて、地震は怖いもの、地震が来たら逃げなければいけないという意識はもっている。学校で行われる避難訓練でも交流学級の児童とともに静かに行動することができている。しかし非常ベルが誤作動で鳴り続けたときに、怖くて動けなかったことがあったので、突発的な出来事には上手く対応しにくい面があり、自分の気持ちを言葉に表すのが難しい。

【題材観】

学校での避難訓練では1次避難、2次避難を体験している。避難生活で使える道具づくりや非常食を食べる活動はしているが、避難をしたら日常とは違う生活をするということになるという認識はない。昨今地震に限らず風水害でも長期の避難生活を強いられることが多くなってきている。日常生活とはどのように違ってくるのか、具体物を通して知っておくことが大切になってくる。未体験のことを想像して理解するのは難しいが、話を聞いたり、体験をしたりすることで災害時の自分の生活についてイメージを持つことができれば非常時に対応がしやすくなるのではないかと考える。また、自立活動で朝ご飯のメニューを作ったり、育てた野菜で調理をしたりしているが、非常時の食事について自分で作ったことはない。限られた道具、食材でどのように食事を作るのか、安全面に気をつけ、指先を使った作業を体験することも必要である。合わせて自分のできること、できないことを把握し、助けが必要なときは周りに支援を求めることができるように保護者と連携して、言葉の練習もしていく必要がある。

【指導観】

指導にあたっては、前時をふり返り地震が起こったときに命を守るために、どのように行動すればいいかを絵本の場面を見て思い出させ、動作を練習する。地震が起こっていつもと同じ生活ができなくなると、どんなことが困るのか図や操作活動をしながら知らせていきたい。避難をした後の生活について家族と選んだ防災用品の具体物を見たり、身の周りの物で教師と一緒に作ったものを使ったりしながら体験させたい。また、1時間の学習の中で1つのことを継続して行うのは難しいので、いくつかの学習を組み合わせ構成していきたい。児童は複雑な話の内容を理解するのは難しいが、物や言葉について興味をもったことはよく覚えている。見たことや体験したことを積み重ねて非常時の行動への一助にしていきたい。

3 児童の実態と目標

題材における実態	題材における目標
<ul style="list-style-type: none"> 初めてのことにはとまどいをもつ。 何か怖いと思ったときは、その場で動けなくなることもあり、自分の気持ちやしてもらいことを伝えるには支援が必要である。 具体物には興味を持ち使おうとするが、使い方は細かく説明したり、実演して見せたりする必要がある。 調理体験は意欲的に取り組むが、指先を使う作業には補助を必要とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な災害時の状況を想定して命を守る行動をとれるようにする。 【2－(2)】 困ったときに手伝ってほしいことを周りの人に伝えることができる。 【6－(5)】 避難時に必要な物を見たり、教師と一緒に作った物を使ったりする。 【4－(5)】 非常食の種類や調理方法について知り、安全面に気をつけて作業することができる。 【5－(5)】

【2－(2)】状況の理解と変化への対応に関すること

【4－(5)】認知や行動の手がかりとなる概念の形成

【5－(5)】作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

【6－(5)】状況に応じたコミュニケーションに関すること

4 指導計画 (全3時間)

(1) じしんがきたら、どうする? [1時間]

(2) ひなんしたら、どうする? [1時間 本時]

(3) 非常食を作ってみよう [1時間]

5 本時の目標

大きな地震が起こるといつもと同じ生活ができなくなることを知り、避難生活で使うものについて考える。 【2－(2) 4－(5)】

6 防災の視点(※)

大きな地震が起こったときには、いつもの生活ができなくなることに気づき、防災用品に関心を持つ。

7 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 (○)・防災の視点 (※)
<p>1 前時をふり返り、本時のめあてを知る。</p> <p>2 「じしんのときどうするクイズ」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおごえでたすけをよぶ ○ ・たおれそうなものからはなれる ○ ・きになったものをとりにもどる × ・おかあさんをさがしてはしりまわる× ・かじのけむりのなかをはしりまわる× 	<p>※地震が起こったときの行動について、絵本「どこがあぶないかな④ぼうさい」の場面を見せて、思い出させる。</p> <p>※地震が起こったとき、自分の命を守るためにどのように行動すればいいのか、大型しかけ絵本「じしんだ」をもとに考えさせ、動作化する。</p> <p>○自分の家の地区名や家族の名前を言う練習をする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> じしんがきたとき、どうしたらいいかしろう。 </div>	
<p>3. 大きな地震が起こったら、いつもどおりの生活ができなくなり、どんなことが困るか知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気・水道・ガスが使えなくなる ・家の中の家電などが使えなくなる。 <p>4. 地震が起こって避難をしたときに、必要になるものについて考える。</p> <p>電気・・・ 懐中電灯、ろうそく 水道・・・ ペットボトルの水 食べ物・・・ 缶詰、レトルト食品 カップ麺、アルファ化米</p> <p>5. 本時のふり返りをする。</p>	<p>○室内図の絵やパワーポイントを使って、災害時に何が使えなくなるか、×カードを置く操作活動を取り入れ、クイズ形式で考えさせる。</p> <p>※前時に家族と一緒に選んだ防災グッズを手にとって見せて、どのように使えばいいか考えさせる。新聞紙とビニール袋で、コップを一緒に作って使う。</p> <p>○非難するときに気を付けること、使うものについてまとめ、次時の非常食づくりにつなげる。</p>

8. 本時の評価

大きな地震が起きるといつもと同じ生活ができなくなることを知り、避難生活で使うものについて考えることができたか。